

日本プロセス化学会第41回理事会議事録

日時 令和4年3月17日～3月23日 メール会議

議題

1 確認・報告事項

- (1) 第41回理事会議事録(2021年6月18日～6月23日開催、学会HP掲載)が承認された。
- (2) 役員移動が承認された。
富士フイルム和光純薬(株)大野桂二様より嶋田泰宏様(試薬化成品事業部 ケミカル開発本部 本部長)に交代
- (3) 2021 サマーシンポジウム (2021年6月24日(木)、25日(金) オンライン開催) について報告された。
中島範行(富山県立大学)理事と清都太郎(富士フイルム富山化学)理事のリーダーシップのもと、2021年6月24日(木)、25日(金)の予定で、初の富山開催を目指して準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の収束が認められないため、参加者の安全・安心を担保することが困難であるとの結論に達し、オンラインで開催した(会員限定、参加費無料、参加者数:482人、招待講演:12演題、一般発表:18演題)。
- (4) 2021 ウィンターシンポジウム (2021年11月26日(金) オンライン開催) について報告された。
林雄二郎(東北大学)先生、海老原新一氏、清水仁(中外製薬)理事を世話人として第一部(10:00～12:40)日本プロセス化学会特別企画 『SDGs へ向けたプロセス化学の貢献』、第二部(13:00～17:20)日本プロセス化学会2021 ウィンターシンポジウム (JSPC 優秀賞受賞講演・授賞式を含む)をオンラインで開催した(会員限定、参加費無料、参加者数:397人、招待講演:第一部2演題、第二部:4演題)。
- (5) 第15回プロセス化学ラウンジ中止について報告された。
Covid 19 の感染状況に鑑み、2021年12月の開催を見送ることとした。
- (6) 2022 サマーシンポジウム (2022年6月30日(木)、7月1日(金) 於:富山県民会館) 準備状況について報告された。
中島範行(富山県立大学)理事と清都太郎(富士フイルム富山化学)理事のリーダーシップのもと、2022年6月30日(木)、7月1日(金)の予定で、初の富山現地開催を目指して準備を進めている。
情報交換会場は「ホテルグランテラス富山」。コロナの影響等により密を防ぐ目的で、情報交換会の参加人数を制限する必要がある可能性がある。
- (7) 2022年ウィンターシンポジウム (2022年12月2日(金) 於:みやこめっせ) 準備状況について報告された。
青山恭規(塩野義)理事と高須清誠(京都大学)先生のリーダーシップのもと、2022年12月2日(金)「みやこめっせ」での開催を目指して準備を進めている。情報交換会の会場は「ウェスティン都ホテル京都」。
京都テルサが改装休館のため、講演会場を「みやこめっせ」、情報交換会場を「ウェスティン都ホテル京都」で準備を進めている。コロナの影響等により密を防ぐ目的で、情報交換会の参加人数を制限する必要がある可能性がある。また、会場費・情報交換会費が高騰するため、情報交換会費の臨時改定をする。
- (8) 地区フォーラムについて報告された。
東四国地区フォーラム、東海地区フォーラム、北陸地区フォーラムともにコロナの影響により2020年度と2021年度は開催されていない。

- (9) **PACIFICHEM 2020 (2021年12月16日～22日 オンライン開催)** について報告された。
2021年12月16日から22日にホノルルで開催が予定されていたPacifichem 2020は、11月にオンライン開催に変更になった。日本プロセス化学学会が主として運営した「Development of New Reactions and Technologies Adaptable to Process Chemistry (#366)」には口頭発表27名(招待講演19, 一般講演8)、ポスター発表14名の発表をいただいた。ハワイの現地時間で運用されたため、日本時間午前3時からのセッションがあるなど、時間的には変則的であったが、活発な質疑応答がなされ、実り多いシンポジウムとなった。
- (10) **日本プロセス化学学会発足 25周年 (2026年) 記念誌**について報告された。
出版委員会(赤井委員長)に付託することとした。
- (11) **シンポジウムなどのイベント支援会社再検討**について報告された。
- (12) **その他**
出前講義について報告された。
会員入会状況について報告された。

2 協議事項

- (1) **日本プロセス化学学会国際シンポジウム**について協議された。
2025年の国際シンポジウムを延期することとした。
- (2) **2023年以降のシンポジウム開催予定**について協議された。
- (3) **地区フォーラム**について協議された。
オンライン開催等、開催形態を検討することとした。
- (4) **第15回プロセス化学ラウンジの開催と未来のラウンジ像**について協議した。
ラウンジは1泊2日の合宿型の勉強会であるため、Covid19禍が治まらないと開催は難しいが、開催形態を工夫するなどの対応で、若手～中堅研究者を中心とした勉強会・交流会として、ポストコロナの状況下、コロナとうまく共存していく方向を目指していくこととした。

3 提案事項(意見交換会)

- (1) **出前講義**について提案があった。
出前講義の活性化のため、学生会員へアンケートを実施し、学生会員の興味に沿ったプロセス化学講義を実施してはどうかとの提案があった。
(学生会員をコアとし、オンライン開催では複数大学での同時実施が可能。会員外の参加も許可)
- (2) **シンポジウム開催時の感染予防対策**について提案があった。
- (3) **他学会との合同シンポジウム開催**について提案があった。